

LEMBAR PERNYATAAN

Yang bertandatangan di bawah ini

Nama : Resty Widyanti Utami
No. Reg : 2915100120
Program Studi : Pendidikan Bahasa Jepang
Jurusan : Bahasa Jepang
Fakultas : Bahasa dan Seni
Judul Skripsi : Analisis Kolokasi Pada Sinonim Kata *Mazushii* Dan
Toboshii Dalam Kalimat Bahasa Jepang

Menyatakan bahwa benar skripsi ini adalah hasil karya saya sendiri. Apabila saya mengutip dari karya orang lain, maka saya mencantumkan sumbernya sesuai dengan ketentuan yang berlaku. Saya bersedia menerima sanksi dari Fakultas Bahasa dan Seni Universitas Negeri Jakarta, apabila terbukti saya melakukan tindakan plagiat.

Demikian saya buat pernyataan ini dengan sebenarnya.

Jakarta, 10 Juli 2015

Materai 6.000

Resty Widyanti
Utami

NIM. 2915100120

**LEMBAR PERNYATAAN PERSETUJUAN PUBLIKASI KARYA ILMIAH
UNTUK KEPENTINGAN AKADEMIS**

Sebagai sivitas akademik Universitas Negeri Jakarta saya yang bertandatangan di bawah ini :

Nama : Resty Widyanti Utami
No. Reg : 2915100120
Fakultas : Bahasa dan Seni
Jenis Karya : Skripsi
Judul : Analisis Kolokasi Pada Sinonim Kata *Mazushii* Dan *Toboshii* Dalam
Kalimat Bahasa Jepang

Demi pengembangan ilmu pengetahuan, saya menyetujui untuk memberikan kepada Universitas Negeri Jakarta Hak Bebas Royalti Non-Eksklusif (*Non-exclusive Royalty free Right*) atas karya ilmiah saya. Dengan Hak Bebas Royalti Non-Eksklusif ini, Universitas Negeri Jakarta berhak menyimpan, mengalihmedia/formatkan, mengelolanya dalam bentuk pangkalan data (database), mendistribusikannya, dan menampilkan/mempublikasikannya di Internet atau media lainnya **untuk kepentingan akademis** tanpa perlu meminta izin dari saya selama tetap mencantumkan nama saya sebagai penulis/pencipta dan sebagai pemilik Hak Cipta. Segala bentuk tuntutan hukum yang timbul atas pelanggaran Hak Cipta dalam karya ilmiah ini menjadi tanggungjawab saya pribadi.

Demikian pernyataan ini saya buat dengan sebenarnya.

Dibuat di Jakarta
Pada tanggal, 10 Juli 2015

Yang menyatakan,

Resty Widyanti Utami
2915100120

ABSTRAK

Resty Widyanti Utami. 2010. Analisis Kolokasi Pada Sinonim Kata *Mazushii* Dan *Toboshii* Dalam Kalimat Bahasa Jepang. Skripsi. Program Studi Pendidikan Bahasa Jepang, Fakultas Bahasa dan Seni, Universitas Negeri Jakarta.

Dalam bahasa Jepang cukup banyak terdapat kata yang mengandung makna yang mirip atau sinonim. Banyaknya sinonim tersebut seringkali menjadi kendala bagi pembelajar bahasa Jepang, karena adanya kriteria yang harus dipenuhi dalam penggunaannya. Salah satunya yaitu kriteria kolokasi, dimana setiap pasangan sinonim memiliki keterbatasan untuk bersanding dengan kata lain dalam kolokasinya. Bolinger (1976) dalam Haydu (1979: 101-102) mengatakan bahwa “*a collocation may involve normal senses of all the words in the string, but without the easy possibility of substituting some other word with the same meaning*”. Menurutny meskipun kolokasi mengandung makna yang normal dari pertalian kata-kata yang membentuknya, namun tidak dapat dengan mudah untuk menggantinya dengan beberapa kata lain yang memiliki kesamaan arti. Seperti pada kata *mazushii* dan *toboshii* yang akan dibahas dalam penelitian ini. Kedua kata tersebut meskipun memiliki padanan kata yang sama dalam bahasa Indonesia yaitu kata ‘miskin’, namun kedua kata tersebut adakalanya memiliki kolokasi yang berbeda satu sama lain. Sehingga apabila pembelajar dalam menggunakan kata *mazushii* atau kata *toboshii* tidak sesuai dengan kolokasinya, maka akan menimbulkan ketidaklaziman dalam penggunaan kedua kata bersinonim tersebut. Oleh karena itu, penelitian ini dilakukan untuk mendeskripsikan kata yang bagaimana saja yang dapat bersanding dengan kata *mazushii* dan *toboshii* dalam suatu kolokasi, untuk mendeskripsikan persamaan dan perbedaan kolokasi antara kata *mazushii* dan *toboshii*, serta untuk mengetahui kondisi dimana kata tersebut dapat saling menggantikan dalam suatu kolokasi. Teknik analisis yang digunakan dalam penelitian ini adalah teknik substitusi dan juga dengan mempertimbangkan hasil angket yang telah disebar kepada 10 orang penutur asli, untuk mengukur kelaziman kolokasinya. Berdasarkan hasil analisis, pada umumnya kata *mazushii* dan kata *toboshii* dapat disandingkan dengan *meishi* yang menunjukkan konsep abstrak dan benda konkrit dalam suatu kolokasi, namun untuk *meishi* yang menunjukkan orang, tempat, waktu, dan aktivitas hanya dapat bersanding dengan kata *mazushii*, sedangkan untuk *meishi* yang menunjukkan keadaan dan sifat/karakter hanya dapat bersanding dengan kata *toboshii*. Selain itu, dalam suatu kolokasi yang mengandung kata *mazushii*, cenderung terbentuk dalam pola *keiyoushi-meishi*, sedangkan yang mengandung kata *toboshii*, cenderung terbentuk dalam pola *meishi-keiyoushi*. Dengan demikian, dari hasil penelitian ini menunjukkan bahwa terdapat kecenderungan perilaku tertentu pada kata *mazushii* dan kata *toboshii* dalam kolokasinya.

Kata kunci : analisis, kolokasi, sinonim, *mazushii*, *toboshii*

日本語の文における「貧しい」と「乏しい」という形容詞の類義語のコロケーション分析

ジャカルタ国立大学

レスティ ウィドヤンティ ウタミ

widy.resty@yahoo.co.id

概要

A. 背景

日本語には互いに類似する意味を持つ単語が数多くある。このような単語は類義語と呼ばれている。『意味のよく似ている単語のセットを類義語という』と、秋元(2002:112)は述べている。類義語を使用することは、しばしば日本語を学んでいる外国人の学習者のための問題になる可能性がある。なぜなら、使用中に満たされなければならない特定の基準があるからである。その一つに、コロケーションという基準がある。Haydu(1979:101-102)によると Bolinger(1976)は、『コロケーションは文字列ですべての語の通常の意味に関係させるかもしれないが、同じ意味でいくらかの他の語を簡単に代えることができない』と述べている。

各々の一組の類義語は、コロケーションで他の語と共起することに制限がある。一つの例として、「貧しい」と「乏しい」という類義語が挙げられる。

「貧しい」と「乏しい」という言葉はインドネシア語で 'miskin' という意味を持つ形容詞である。増岡と田窪(1990:21)によると、『形容詞は、何かからの状態を表し、述語の働きと名詞の修飾語の働きをする。また、文中での働きの違いに応じて活用する。』と述べている。その二つの形容詞は意味がよく似ているが、互いに別のコロケーションを持つことがあり、その二つは同じコロケーションの中で置き換えることができるかどうか日本語学習者には分からない。また、それについては明確な説明も、あるいは研究もない。そのため、学習者がコロケーションに従っていない「貧しい」と「乏しい」という類義語を使用する場合は、その使用は不自然になる可能性がある。

以上に述べた問題的をもとに、筆者は「貧しい」と「乏しい」という形容詞の類義語のコロケーション分析を研究することにした。

B. 問題提供

本研究の問題提供は以下の通りである：

1. あるコロケーションで「貧しい」または「乏しい」という形容詞と共起できる名詞はどのような名詞であるか。
2. 「貧しい」と「乏しい」という形容詞のコロケーションの類似点と相違点は何であるか。
3. あるコロケーションで「貧しい」と「乏しい」という形容詞が互いに置き換えられる条件はどのような条件であるか。

C. 解説

本研究では、記述的な研究方法を用いている。その目的は三点ある。「貧しい」と「乏しい」という形容詞の類似点と相違点を調べること、その二つの形容詞から自然に生まれた表現であること、その二つの形容詞は置き換えられる条件であることを理解できるようになるためである。

本研究のデータを集めるテクニックは文書化テクニックを用いている。それと同時に、日本語母語話者にアンケート調査も実施する。文書化テクニックとアンケート調査の説明は以下の通りである：

1. 文書化テクニック

Arikunto (2006:158)によると、『文書化は事項について記録や転写物や本や新聞や雑誌や会議での注意事項や成績表やアジェンダなどのようなデータを検索し、収集することである』と述べている。本研究のデータは Asahi Digital 新聞(www.asahi.com)と Yomiuri Online 新聞(www.yomiuri.co.jp)から取り上げられた実例である。それは、「貧しい」を含む 28 例文と「乏しい」を含む 30 例文である。

2. アンケート調査

Arikunto (2006:151)によると、『アンケートは個人的なことに関するレポート、あるいは知られている物事について回答者からの情報を得るための声明書である』と述べている。そのアンケート調査は実例にある名詞と共起する「貧しい、乏しい」から形成されたコロケーションが自然的な表現かどうかを調査する目的である。回答者として、10 人の日本語母語話者にはその

アンケートに自然的な表現場合は「○」で答え、不自然的な表現場合は「×」で答えてもらう。アンケートの格子は以下の通りである。

質問指標	項番
A. 「乏しい」を含むコロケーションの自然性	1A - 22A
B. 「貧しい」を含むコロケーションの自然性	1B - 24B
C. あるコロケーションで互いに置き換える可能性	1A - 22A 1B - 24B

本研究には 2 つの形容詞があり、最初に筆者は「貧しい」という形容詞の使うコロケーションを「乏しい」という形容詞に換え、分析する。それから、「乏しい」という形容詞の使うコロケーションを「貧しい」という形容詞に換え、分析する。分析にあたっては、同じ組合せの単語がある文は、互いに比較することにより、同時に分析を行う。そのような分析は、次のようである。

1. (1) これ以降、選挙活動における電子メールやネット広告は徐々に重要視されていき、クレジットカードによるネット献金が可能になると、資金力に貧しい候補者であっても、インターネットを活用することで多額の資金を集める候補者もでてきました。

滝沢の理論に基づいて、「資金力に貧しい」というコロケーションは語彙的なコロケーションに含まれている。それは、「名詞＋形容詞」という内容語の組み合わせで形成されたコロケーションだからである。そのコロケーションの形成から、「貧しい」という形容詞は「資金力」という言葉の後ろにあると見られる。したがって、「貧しい」という形容詞が述語として機能することがわかる。「資金力」という言葉は抽象的な概念を表す名詞である。インドネシア語では‘daya finansial’という意味だ。したがって、「資金力に貧しい」というコロケーションは、インドネシア語で‘miskin akan daya finansial’または‘kekurangan daya finansial’と翻訳することができる。そのコロケーションの「貧しい」は「乏しい」に置き換えることができると考えられる。それは、次の文のようである。

- (2) 日本のベンチャーキャピタル(VC)は長期投資に耐える資金力が乏しく、どうしても短期で利益を出そうとする。

「資金力が乏しい」は「資金力に貧しい」のように同じ意味である。それは、資金力が少ない様子を表すことである。「乏しい」と「貧しい」は“物品や金銭が少ない、不足している”という意味を持つ。したがって、「資金力」という言葉は、金銭に関するコロケーションで両方とも使われる可能性があると考えられる。それで、秋元の理論に基づいて、「資金力に貧しい」というコロケーションは‘ゆるい連語’の一種である。

そのような分析は、同じ単語組合せを持つ文だけに対して行う。同じ単語組合せを持っていない文に対し、コロケーションの自然性を知るために、ネイティブ判断調査の結果を基に適宜考慮し、分析を行う。分析は、次のようである。

2. マレー半島先端のごく小さな貧しい島を世界有数の富裕国にした、見事な指導力を持つ政治家だった。

滝沢の理論に基づいて、「貧しい島」というコロケーションは語彙的なコロケーションに含まれている。それは、「形容詞＋名詞」という内容語の組み合わせで形成されたコロケーションだからである。そのコロケーションの形成から、「貧しい」という形容詞は「島」という言葉の直前にあることがわかる。したがって、「貧しい」という形容詞が修飾語として機能することを知られている。「島」という言葉は場所を表す名詞である。インドネシア語では‘pulau’と意味する。したがって、「貧しい島」というコロケーションは、インドネシア語で‘pulau miskin’と翻訳することができる。

しかし、そのコロケーションの「貧しい」は「乏しい」と置き換えられない。それは、「貧しい島」の「貧しい」は、全体的に必要なものに恵まれていない島だと説明し、必要なものに恵まれていないため、その島は中身が少ない様子を表すからだ。一方、「乏しい」場合は、インドネシア語で‘miskin’という言葉に翻訳されるが、‘全体として、必要な物事に恵まれない様子’という意味を持っていない。「乏しい」はあるものごとに少ない、不足している様子を表す傾向にあり、中身が少ない様子ではなく、数量が少ない様子を表す形容詞である。したがって、「貧しい島」の「貧しい」は、「乏しい」に置き換えられることはできないと考えられる。そして、コロケーションの自然性のアンケート調査の結果から、すべての回答者が「貧しい島」というコロケーションで「乏しい」は「貧しい」を置き換えることはで

きないと述べた。それで、秋元の理論に基づいて、「貧しい島」というコロケーションは‘かたい連語’の一種である。

すべてのデータの分析結果を基に、「貧しい」という形容詞を含む 28 文から 27 のコロケーションがあり、6 つのコロケーションのみで「乏しい」という形容詞に置き換えることができないということがわかった。また、「乏しい」という形容詞を含む 30 文から 26 のコロケーションがあり、11 つのコロケーションが「貧しい」という形容詞に置き換えることができた。

D. 結論

研究結果を基に、コロケーションでの「貧しい」と「乏しい」という形容詞には特定の状況で使われる傾向にある。それは、次のようである。

1. コロケーションの中で「貧しい」と「乏しい」という形容詞は、人間の内面・力・生命という抽象的な概念を、金銭という具体的な物を表す名詞と共起されることがわかった。
2. 「貧しい」と「乏しい」という形容詞の共通点はインドネシア語で ‘miskin’ や ‘kurang’ や ‘sedikit’ や ‘terbatas’ や ‘minim’ に釣り合えること、使用において否定的なイメージを持つことがわかった。
3. 「貧しい」と「乏しい」という形容詞の相違点は次のようである。
 - 1) 「貧しい」という形容詞は人や場所や時や活動や人・**程度**という抽象的な概念を表す名詞と共起されること、「形容詞＋名詞」というコロケーションの形成で現れる傾向にあること、名詞の修飾語の働きをする傾向にあることがわかった。
 - 2) 「乏しい」という形容詞は状態や性格や一般の抽象的な概念や一般の具体的な物を表す名詞と共起されること、「名詞＋形容詞」というコロケーションの形成で現れる傾向にあること、述語の働きをする傾向にあることがわかった。

KATA PENGANTAR

Puji syukur kehadiran Allah SWT karena berkat Rahmat dan Karunia-Nya, penulis dapat menyelesaikan penyusunan skripsi ini. Shalawat serta salam senantiasa tercurah kepada Nabi Muhammad SAW, kepada keluarganya, para sahabatnya, hingga kepada umatnya hingga akhir zaman.

Penulisan skripsi dengan judul “Analisis Kolokasi Pada Sinonim Kata *Mazushii* Dan *Toboshii* Dalam Kalimat Bahasa Jepang” ini diajukan untuk memenuhi salah satu syarat memperoleh gelar Sarjana pada Program Studi Pendidikan Bahasa Jepang, Fakultas Bahasa dan Seni, Universitas Negeri Jakarta.

Dalam penyusunan dan penulisan skripsi ini tidak terlepas dari bantuan, bimbingan, serta dukungan dari berbagai pihak. Oleh karena itu, pada kesempatan ini penulis menyampaikan terima kasih kepada :

1. Ibu Yuniarsih, M.Hum., M.Ed selaku ketua Jurusan Pendidikan Bahasa Jepang Fakultas Bahasa dan Seni Universitas Negeri Jakarta.
2. Bapak Komara Mulya, M.Ed. dan Ibu Tia Ristiawati, M.Hum. selaku pembimbing akademik kelas reguler 2010 Jurusan Pendidikan Bahasa Jepang Fakultas Bahasa dan Seni Universitas Negeri Jakarta.
3. Ibu Frida Philiyanti, M.Pd. selaku dosen pembimbing I yang telah meluangkan waktu untuk memberikan bimbingan dalam memahami teori, mengoreksi, serta memberikan banyak nasihat, masukan dan arahan dalam penulisan skripsi ini.
4. Ibu Cut Erra Rismorlita, M.Si. selaku dosen pembimbing II yang telah bersedia meluangkan banyak waktu untuk membimbing dengan sabar dan teliti, serta memberikan berbagai macam masukan yang sangat berarti bagi penulis.
5. Seluruh staf dosen Jurusan Bahasa Jepang Fakultas Bahasa dan Seni Universitas Negeri Jakarta yang telah memberikan ilmu dan saran yang bermanfaat bagi penulis.

6. Tomoyo Tadano, Mika Endo, Mari Suto, Yumi Yabumoto, Maeda Chiyoko, Yoshiji Osumi, Takashi Kawanishi, Chikara Sato, Yoshio Tayanagi, dan Furuuchi Ayako yang telah bersedia meluangkan waktunya untuk menjadi responden dalam skripsi ini.
7. Segenap keluarga tercinta yang telah memberikan doa, dukungan, serta kasih sayang, sehingga penyusunan skripsi ini dapat terselesaikan. Terutama untuk kedua orang tua, ayah wisnu, dan mamah nia, serta adikku satu-satunya eno yang tak henti-hentinya memberikan semangat kepada penulis.
8. Ibu Murni Setyaningrum, S.Pd yang juga telah memberikan masukan, bantuan, serta semangat dalam penyusunan skripsi ini.
9. Mas ika, yang selalu memberikan doa, semangat, dan bantuan dalam menyelesaikan skripsi ini, serta tak bosan mendengarkan curhatan-curhatan di saat jenuh atau kesulitan dalam menyusun skripsi ini.
10. Diana, Arum, dan mba Mar, sahabat-sahabat terbaik selama masa kuliah yang selalu menemani dalam suka maupun duka.
11. Teman-teman Ajepreg 2010 yang telah memberikan dukungan dalam penyusunan skripsi ini Bela, Arin, Ratu, Anggun, Neno, Endah, Uci, Yuli, Dempong, Debi, Cika, Ames, Dira, Mero, Lira, Jeumpa, Dio, Andi, Boy, Dedi, Awang, beserta teman-teman Jakkodai Nikka lainnya yang saling menyemangati.
12. Seluruh pihak yang telah membantu hingga terselesaikannya skripsi ini, yang tidak dapat disebutkan satu persatu.

Semoga ketulusan yang telah diberikan benar-benar menjadi amal ibadah dan mendapat ridha dari Allah SWT.

Jakarta, Juni 2015

Penulis

RWU

DAFTAR ISI

LEMBAR PENGESAHAN	i
LEMBAR PERNYATAAN ORISINALITAS	ii
LEMBAR PERNYATAAN AKADEMIK	iii
ABSTRAK	iv
RESUME BAHASA JEPANG	v
KATA PENGANTAR	x
DAFTAR ISI	xii
DAFTAR TABEL	xiv
DAFTAR LAMPIRAN	xv
BAB I PENDAHULUAN	1
A. Latar Belakang	1
B. Fokus dan Subfokus Penelitian	8
C. Perumusan Masalah	9
D. Manfaat Penelitian	9
BAB II KERANGKA TEORI	11
A. Deskripsi Teoretis	11
1. Kelas Kata atau <i>Hinshi</i> 「品詞」	11
2. Kata Sifat Bahasa Jepang (<i>Keiyoushi</i>)	14
3. Semantik	18
4. Makna	22
5. Kolokasi	37

6. Sinonim	43
7. <i>Mazushii</i> (貧しい) dan <i>Toboshii</i> (乏しい)	51
B. Penelitian yang Relevan	66
C. Kerangka Berpikir	69
BAB III METODOLOGI PENELITIAN	72
A. Tujuan Penelitian	72
B. Lingkup Penelitian	72
C. Waktu dan Tempat	73
D. Prosedur Penelitian	73
E. Teknik Pengumpulan Data	75
F. Teknik Analisis Data	77
G. Kriteria Analisis	78
BAB IV HASIL PENELITIAN	80
A. Deskripsi Data	80
B. Interpretasi	85
C. Keterbatasan Penelitian	171
BAB V PENUTUP	173
A. Kesimpulan	173
B. Implikasi	176
C. Saran	177
DAFTAR PUSTAKA	179
LAMPIRAN	

DAFTAR TABEL

Tabel 2.1	Perubahan Bentuk Adjektiva	17
Tabel 2.2	Jenis – Jenis Kolokasi	41
Tabel 2.3	Perbandingan Makna <i>Mazushii</i> dan <i>Toboshii</i>	63
Tabel 2.4	Persamaan dan Perbedaan Makna <i>Mazushii</i> dan <i>Toboshii</i>	65
Tabel 3.1	Kisi-Kisi Angket Tingkat Kelaziman Kata	76
Tabel 4.1	Contoh Kalimat <i>Mazushii</i>	80
Tabel 4.2	Contoh Kalimat <i>Toboshii</i>	83
Tabel 5.1	Perbedaan Kolokasi <i>Mazushii</i> dan <i>Toboshii</i>	174

DAFTAR LAMPIRAN

Lampiran 1 Angket

Lampiran 2 Hasil Angket Keseluruhan